

第三者意見

今から約20年前に、THK社の当時の技術部長白井武樹氏に出会いました。企業の社会的責任という言葉聞いた最初の記憶です。当時、「LMガイド」は多くの工作機械に搭載され、すべり案内のころがり化が盛んに行われようとしている時代でした。創業後37年で部品産業の世界的リーディングカンパニーになったTHK社の活力は一体何なのでしょう？ CSRレポートを拝見しますと、製品の販売とともに顧客からニーズとシーズを吸収しつつ独自のアイテムを考案・創出し、絶えず新製品開発を進めてきたことが良く伺えます。THK社の成長は、他社で手掛けていないころがり現象を利用した製品の基盤技術の確立と技術の伝承が、環境フレンドリー、顧客本位の製品群開発につながっているためです。「原理に忠実に実行は大胆、迅速に」、さらなる技術の高度化と高精度・高信頼性化および製品に対する実験と理論による原理・原則の追及と解明を期待します。

医療、福祉などに展開をはじめたロボットへの取り組みは、未来のCSR貢献技術になると思われます。自社技術の延長を越えたシステム技術の取り組みになりますが、本質はより良い機械部品があればこそです。CSRの一環として将来、社会のニーズに応えるべく地道に努力することを期待します。また、阪神・淡路大震災の教訓から、免震・制震装置が巨大化製品の展開として誕生しました。文化財や社会インフラ保護の大事なCSRの一端を担う製品群ですが、軽量化・高強度化製品の開発を期待します。

今日ほどわが国の企業コンプライアンスや企業倫理の遵守が乱れた時代はありません。THK社では経営理念をもとにクリアな経営をするため、コーポレートガバナンス体制を敷き、セキュリティ体制整備と情報公開・目標達成開示を積極的に進め、内部通報制度を設け、リスク管理室によるリスクマネジメントの徹底を図るなど、CSRを達成のための組織づくりができていると思われます。持続可能な社会づくりに貢献するためのものづくりが安心してできる組織になるように運用してください。また、ものづくりは人づくりでもあります。従業員の個力を伸ばすための各種社内教育・研修制度、労働安全制度、全社的コミュニケーション活動、グローバルな社内報の発行など、地域社会との関わりとともに、さらに人に優しいCSR活動を目指してください。

機械系のものづくりには大規模な環境汚染などのリスクが少ないのが特色です。工場の切粉や研削粉など、廃棄物質の管理やリサイクルへの取り組み、有害化学物質に対するコンプライアンスなど、CSR達成のための企業努力が伺えます。しかし、どの軸受メーカーでも同様ですが、部品加工ラインの環境改善は何かならないものかと思えます。

今後ますますグローバル化が進み、世界中に御社の製品が出回るなかで、ものづくりに対する情熱やコンプライアンス、管理体制など、CSRの達成に向けて着々と手を打たれていることが理解できました。



明治大学理工学部機械情報工学科
教授 清水 茂夫様

1942年生まれ。1969年明治大学大学院機械工学専攻修士課程修了。1980年学位論文「直動玉軸受の負荷分布と寿命に関する研究」（東京工業大学）。ころがり機械要素、信頼性工学、トライボロジーの研究に従事。著書：『転がり機械要素の動負荷容量』（廣済堂印刷）、『機械系のための信頼設計入門』（数理工学社）。論文賞：『直動ボールガイドシステムの負荷分布と精度・剛性に関する研究』（1991年精密工学会）、『Fatigue Limit Concept and Life Distribution Model for Rolling Contact Machine Elements』（2003年STLE）。

編集後記

「THK CSRレポート2007」はTHKが初めて発行するものです。私たちはこのレポートを編集するに当たり、社内で「THKにとってのCSRとは何か」ということを徹底的に議論いたしました。この結果、改めて当社ならびに当社製品の役割につき深く考え、社会的責任という観点から当社を振り返ってみることができました。

今回の特集にもあるようにTHKのCSRとは本業そのものであり、また本業の過程において可能な限りの社会的貢献をすることであると考えました。だからこそ私たちはその使命と誇りを胸に、日々業務に邁進していく必要性を改めて認識いたしました。すなわち、常にステークホルダーから信頼される事業活動を心掛けていくことが、THKの発展とステークホルダーのみなさまの満足度向上につなが

るものと思います。

今回のCSRレポートは、まだまだ不十分な部分も多いと考えております。「環境」、「雇用」、「地域社会」などでTHKグループ全体として貢献できるステージはたくさんあると思います。次回のレポートではより充実した内容でご報告できるよう、全社をあげて努力してまいります。

また、このCSRレポートが読者のみなさまにどのように受け取られたのかご意見を賜りたく存じます。貴重なご意見は、今後の当社CSRへの取り組みやレポート作成の参考にさせていただきたいと考えております。ご高覧のうえ、忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただければこの上ない幸いです。

CSRレポート作成プロジェクト
(次回発行予定2008年10月)